
めんどくせえ

ゆた坊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

めんどくせえ

【Nコード】

N5946B

【作者名】

ゆた坊

【あらすじ】

彼女はなぜ合コンに行きたいのか？俺にはわからない。誰か教えてください。

(前書き)

あなたは彼女が合コンに行きたい理由がわかりますか？合コンに行きたいって言われたらどう思いますか？

「オマエ、めんどくせえよ。」

「そんな言い方しなくてもいいじゃん。」

「行きたきゃ行けばいいだろ。」

彼女が明日の夜、合コンに行くと言ってきたのだ。

なんでそういうことを素直に言うのだろうか？俺なら内緒にして行くのに。

と、思いながら彼女の気持ちを考えて。

「行くな」と言われたいのか？「行っていいよ」と俺が素直に認めると思っただのか？

後者だとしたら彼女は何様のつもりなのだろう。

昔、俺が合コンに行ったのが彼女にばれた時、一週間しゃべってくれなかった。

そして、許してくれる代わりに回らない寿司をおごらされた。

だから俺は「いいよ」なんて言わないし、なんでそんな事を言えるのかがわからない。

事の発端は、彼氏のいない友達に誘われたらしい。

そういう友達はカップルにとって疫病神だ。

「彼氏がいるのに行くのっておかしいと思わねえか。」

俺も自分の事を棚に上げてよく言った。

「おかしいかもしれないけど、人が足りないって言うからしょうがないじゃん。」

よく聞くフレーズだ。

「じゃあ行けばいいだろ。もう知らねえ。」

俺はもうやけくそだ。

10秒ぐらいの沈黙の後、

「・・・わかった。断ればいいんでしょ。」

やけに素直になったと思えばいい顔を見ると不満そうな顔だった。

「だったら、俺も誘われたら行くぞ。いいんだな。」
「ついつい余計な事を言ってしまう。言わなきゃいいのに。」

「行かないって言ってるでしょ。しつこいよ。静かにしてよ。みんな見てるよ。」

今度は、ものすごく冷めた言い方をされた。絶対に納得していない。この言い方が無性に腹が立つ。

でも、この言い方をされると何て言っていていいかわからなくなる。

あとは、キレルしかない。でもここはファミレスだ。本当にみんなが見ている。

なぜか俺の負けみたいになっている。悔しいがしょうがない。でも合コンには行かせない。

「わりいな。でも俺の気持ちもわかってくれよ。」
俺の方から折れてみた。

「ていうか私の気持ちをわかってよ。何で行っちゃいけないのよ。」
人がせつかく謝っているのに。

だが、今さら何で？はおかしい質問だ。やっぱり納得していない証拠だ。

「何でって・・・あたりまえじゃねえか。俺たち付き合ってるんだぞ。」

そのとおりだ。付き合ってるんだから行かないのがあたりまえなのだ。

「そうだよね、付き合ってるならあたりまえの事だよね。」
何か言いたそうな感じだ。

「なんだよ、何か言いたいことでもあんの。」
「.....」

「なんだよ、言えよ。」
彼女の気持ちかわからない。

「ああ、めんどくさい。なんでわからないのよ。明日は何の日よ？」
2月の・・・26日・・・。やばいつ。

すぐにわかった。付き合った記念日だ。

「付っ・・・、付き合った記念日だろ。三周年の。」

知ったかぶりだ。焦って噛んでしまった。

「忘れてたでしょ？」

「忘れてねえけどそれが言わせたかったのか。」

「うん。」

少し申し訳なさそうにうなずいた。

「コンパの話は？嘘か？」

「うん。だって・・・。」

「なんだそれ、めんどくせえ女だなあ。自分から言えばいいだろ。」

俺が少し笑って言うと、彼女も笑顔で言い返した。

「いつつ私からじゃん。」

「どっちからでもいいんだよ、そんなことは。」

男には付き合った記念日の意味がわからない。

俺の彼女はめんどくせえ。合コンが嘘でよかったけれど、本当にめんどくせえ。

でも、そんな彼女が好きな俺は、もっとめんどくせえのかも・・・。

(後書き)

こういうカップルは幸せですよ。最近こういうやりとりは「無沙汰」だなぁ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5946b/>

めんどくせえ

2011年1月18日14時14分発行